

## 「新産業を生む科学技術」選考講評

選考委員長 長田 義仁

科学技術には不可能と思われた発明・発見によって新しい価値を創出し、より豊かで多様性ある社会を実現する力があります。人工知能、情報技術、ゲノム編集などが現代社会に大きな変革をもたらしていることは、日々どなたも感じている事でしょう。本プログラムは旧来の枠を超えた自由な発想によって、世の中になかった独創的・革新的な科学と技術を生み出して新しい産業を創出し、社会にイノベーションをもたらすような研究を助成することを目的としています。

第15回目の募集となる今回も多く応募がありました。医療、生命、材料、ICT、ロボティクス、環境、エネルギー、食糧など非常に幅広い分野から応募がありました。応募者の年齢は20歳代から70歳代まで広く分布し、女性の応募者は17名でした。今回も例年どおり高いレベルの魅力ある提案を数多く頂きました。

応募いただいた提案書は様々な分野からなる学識豊かな選考委員14名によって丁寧に、そして慎重に審査されました。事前に、分野、年齢、性別、地域、所属機関などの配慮をしないことを確認したうえで、自由な発想に基づく創造性ある構想か、先駆的で高い水準の研究か、新産業を生み出し豊かな社会を実現する構想か、といったことを重要な視点として審査しました。また、既存の枠を超えて社会が求める新しい学問領域を切り開く構想か、といったことにも留意して審査しました。

審査委員は、提案書に基づく1次審査、申請者のプレゼンも交えた2次審査を通じ活発にそしてオープンに議論を重ね、最終的に11名（女性は3名）の提案を採択いたしました。ICT、医療、材料、環境問題など、いずれも現代社会が抱える喫緊の課題に果敢に挑戦する、あるいはそれを先取りするような提案を選ぶことができたことと選考委員一同は考えております。

研究とは本来、極めて個人的で孤独な作業ですので、精神的・肉体的負担も大きいのが常です。そのようなことを考慮し、キャノン財団は課題採択後も随時、研究者を訪問して相談相手となり、予算使途や研究課題の推進について研究者の立場に立って対応しております。また、研究途上で予期せぬ問題などが生まれれば選考委員らと共に迅速に、柔軟に問題解決を図るようにしていることも本財団の特徴です。

めでたく採択された研究者の皆さんは、この栄えある機会を大いに活用して、失敗を恐れず自ら描いた構想の実現を大胆に目指して欲しいと審査員一同は願っております。